

四国中央市における子育て支援活動

—ACTすこやか子育て講座のファシリテーター養成を目指して—

小 松 陽 子

1. はじめに

近年、子育て支援の重要性は高まっている。これまで加速している少子化に対応するために様々な施策が実施されてきた。1990年の1.57ショックを契機にエンゼルプランが策定されたことに始まり、2012年に成立した子ども・子育て関連3法と子ども子育て支援新制度の策定へと進んでいくが、その背景に少子化だけでなく子育ての孤立化や児童虐待も問題視され、新しい施策が取り入れられてきた。しかし、そういった取り組みの中、新型コロナウイルス感染症の影響で世界全体が影響を受けた。また、大きな紛争も起こり、経済にも打撃を与えている。こうした新型コロナウイルス感染症や紛争が、われわれの日常生活や子育て家庭に与えた影響も大きい。子どもの貧困はより顕著になり、児童虐待の報告数も増加の一途である。2022年には、「こども基本法」「こども家庭庁設置法」「改正児童福祉法」の施行はされたが、問題解決に期待しつつも明確な見通しが立たない状況である。このように、今なお子育て家庭を取り巻く環境は変化し問題も複雑化しており、国の施策をもとに子育て支援を実践していく必要がある。

筆者は、宮城県仙台市を中心に、暴力・虐待防止の意図を含んだ育児プログラム「ACTすこやか子育て講座」のファシリテーターとして4年間活動していた。その経験を活かし、地元である四国中央市

でも地域貢献として子育て支援を行なっていきたいと考える。本稿では、地域における子育て支援を推進するにあたり、「ACTすこやか子育て講座」の導入を目指し、その活動についてまとめ、四国中央市での子育て支援の方向性を見出すことを目的とする。

2. 四国中央市の子育て環境について

四国中央市は、愛媛県の東端に位置する市である。愛媛県・四国地方を代表する工業都市のひとつであり、日本一の紙のまちをうたっている。産業は盛んであるが、将来人口の見通しとして、2023（令和5）年10月末の住民基本台帳人口は82,408人¹⁾であったが、「今後も大幅な自然減による人口減少が進むことが想定」²⁾されている。高齢者の占める割合は増え、子どもの数は減少しており、少子高齢社会に突入している。一方、世帯数は増えており、単身世帯の増加や核家族化も進行している。その結果、子どもや子育て家庭への影響として「コミュニティの形成が困難となり、地域で互いに支え合うような環境の強化が進まなくなる恐れ」³⁾があると指摘されている。地域における行事等に参加するのは高齢者が多く、若い人の中には積極的に参加する人もいればそうでない人もいる。自治体は子育て支援に力を入れているが、核家族化が進んでいる現状では子育ての孤立化も予想される。あるいは世帯によって、高齢者が多いからこそ助けられる面もありつつ、世代による子育て観の違いに悩む子育て家庭もあるのではないかと予想する。現在、子育ての情報はネットで検索すればいくらかでも出てくる。情報はあふれており、どの育児方法が正しいのか、自分

令和5年12月19日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 子ども学科
TEL 0877(49)8052 FAX 0877(49)5252
Email komatsu.y@kjc.ac.jp

の子どもに合った情報は何なのかわからなくなる状況も考えられる。情報リテラシーとして、自身に必要な情報を適切に活用することが望ましいとされているが、毎日の子育てに忙しい養育者が自身の子どもに合った情報を適切に得るのは難しい。また、周りが良かれと思って助言することもあるが、時として養育者を不安に追い込んでしまうこともある。情報過多により育児に悩む子育て家庭も多いと考える。

3. 児童虐待防止プログラムとしてのACTすこやか子育て講座

こうした状況に対応するため、四国中央市での「ACTすこやか子育て講座」を導入することが有効ではないかと考えた。「ACTすこやか子育て講座」とは、アメリカ心理学会が開発した虐待暴力防止のための子育て支援プログラムの日本語版であり、翻訳をもとに日本の文化・社会に適した形で改変されたプログラムである。養育者の感情に焦点を当てた体験型のプログラムで、通常1回2時間の講座を連続8回行うことを特長とする。宮城県では、震災後の混乱の中で大きなストレスを感じつつ子育てを行っている保護者への支援が重要であると考えられ、この「ACTすこやか子育て講座」が定期的に開催されている。その効果を検討した結果、震災に特化した効果というよりも、日常の子育て家庭が直面する問題に向き合う時間を確保できることが指摘された⁴⁾。そのため、子育ての孤立化や自身の育児に悩む養育者の存在が考えられる四国中央市においても、その効果は有効であると考ええる。

先ほど記載した通り「ACTすこやか子育て講座」は体験型グループワークを取り入れたプログラムであり、自身の感情と向き合う講座である。特に、グループワークのロールプレイを導入することで、自身や周りの人の行動や感情を体験し、振り返ることができる。また、その行動を引き起こした背景に気付くこともある。振り返りや話し合いをする中で、同じ子育て中の養育者の意見や考えも共有できる。そういったワークを通し「自分だけではない」という感覚や「そういった捉え方もあったのか」と自身の行動や感情を受け止めつつ、客観的に振り返るこ

とができるのではないかと考える。

「ACTすこやか子育て講座」では、子育てに関する知識は伝えるのみならず、子どもの気持ちや養育者自身の気持ちに向き合うことで、自身に合った知識を日常の子育てに活かせるよう工夫されている。子育て情報が溢れている今日、情報に振り回されず自分に合った適切な子育て方法を選択できる講座であると考えられる。そこで、核家族化や子育ての孤立化が懸念される四国中央市において、「ACTすこやか子育て講座」を開催し、子育て家庭への支援につなげていきたいと考える。

4. ACTすこやか子育て講座開催にむけて

繰り返しになるが、「ACTすこやか子育て講座」は体験型の講座であり、参加者（養育者）によっては心を揺さぶられる体験となる場合があり、それに対応するために最低2名のファシリテーターが必要である。そのため、筆者ひとりでは開催できないため、まず「ACTすこやか子育て講座ファシリテーター養成講座」（以下、養成講座とする）を受講し、ファシリテーターとして一緒に活動できる人材探しから始めることとした。現在、日本ではNPO法人日米心理研究所（Japan-U.S. Psychological Institute、以下JUPIとする）が主催する養成講座を受講し、修了証を得たものがファシリテーターとして活動することができる。そこで、2023年5月に開催された第24回ACTファシリテーター養成講座（リモート開催）を筆者が知る子育て支援者に案内した。その結果、2名が受講し、修了することになった。しかし、その案内活動をしている中で、子育て支援に携わっている方から、「ACTすこやか子育て講座」を安定的に開催するためには、もう少しファシリテーターを確保したほうが良いとの指摘があった。加えて、ファシリテーター養成講座を受講することで子育て支援の知識向上につながり、得た知識や理論を共通言語とした子育て支援者（受講者）のネットワークを構築することが必要ではないかとの助言もあった。そこで、ファシリテーターを増やすだけでなく、ファシリテーターを中心とした子育て支援者ネットワークを構築し、子育て支援活動を展開することが重要ではないかと考えるに至った。

5. 四国中央市の子育て支援ネットワーク

四国中央市でも、全国の流れと同様に子育て支援に力を入れている。そうした中で、2011年に四国中央市子育て支援ネットワーク「しこちゅ〜・ほこほこネット」が結成された。「しこちゅ〜・ほこほこネット」は、「四国中央市と協働し、子育てを支援するNPO法人やボランティア団体（個人）等のスキル向上を図り、相互の交流を促進することで団体間の連携を推進し、四国中央市の子育て支援活動を充実させ、子育てしやすい環境をつくることを目的」⁵⁾としている。現在の子育て家庭が抱える問題は複雑化している。そうした問題を解決に導くためにも、関係機関の連携は子育て支援の基本である。子育て支援に尽力している市とNPO法人・ボランティア団体が連携をしていくことは、今後の子育て支援の方向であると考えられる。すでにある「しこちゅ〜・ほこほこネット」と、これから構築するネットワークをどのようにつなげていくかは、すでにある子育てネットワークの現状と課題に合わせて検討していきたい。

6. 四国中央市での養成講座開催に向けて

以上のことから、まず四国中央市においてファシリテーター養成講座の受講生を増やすことを考えた。第24回養成講座で四国中央市からの参加人数が少なかった要因として、「ACTすこやか子育て講座」の認知度、受講費、受講期間の主に3つが考えられた。養成講座の受講を子育て支援者に紹介した際、講座の内容に興味関心をもたれても、受講費や受講期間を提示する事で難色を示されることが多かった。なぜなら、ファシリテーターになるためには18時間の講座を受講することになり、長い時間の確保が難しい様子であった。加えて、講座時間の長さに伴い受講費も3万円を下らないが、そこまでの受講費を支払ってまで子育て支援の知識技術向上を図るにはかなりの動機づけが必要であろう。そこで、養成講座を受講する際の経費負担を軽減したいと考え、四国中央市の「あったかなまちづくり活動支援事業」に応募することにした。

7. 「あったかなまちづくり活動支援事業」への応募

「あったかなまちづくり活動支援事業」とは、「市民活動団体が行う公益的かつ自主的な魅力あるまちづくり活動の必要な経費の一部を補助することにより、団体の活動の活性化を図ると共に団体の自立支援を行い、協働のまちづくりを推進」⁶⁾することを目的としている。そこで、事業名「ACTすこやか子育て講座ファシリテーターの養成 in 四国中央市」として、この「あったかなまちづくり活動支援事業」に応募した。参考までに、筆者は、既にある「TEAM WORK SHIKOCHU」という市民団体に所属することで市民活動団体として応募した。事業目的としては、①子育て中の養育者を対象としたACTすこやか子育て講座の定期的な開催を目指し、ACTすこやか子育て講座を開催できるファシリテーターの養成を行うこと、②受講修了者同士のネットワークを作り、四国中央市における心理学的理論に基づいた継続的な子育て支援につなげていくこと、の2点を挙げた。審査の結果、39万6千円の補助を得られることとなった。

8. ACTすこやか子育て講座ファシリテーター養成講座の開催

養成講座開催に関して、募集等はTEAM WORK SHIKOCHUで行い、JUPIに委託する形で養成講座を開催した。養成講座は、日本では2013年より年に約2回のペースで開催されている。通常、JUPIが開催する養成講座は東京（23区内）で開催されることが多い。東京で受講する場合、受講者は交通費も必要になる。受講者の負担をできるだけ軽減したいため、四国中央市で開催することにした。しかし、日本語で養成講座を担当できるマスタートレーナーは3名しかいない。メインのマスタートレーナーはサンフランシスコ在住の西澤奈穂子氏であり、その他のマスタートレーナーは東京と仙台に住んでいる。そのため、四国中央市において対面形式で開催した場合、別途マスタートレーナーの交通費が発生する可能性があった。よって、対面形式が望ましいが、新型コロナウイルス感染症の影響で第23回と第24回の養成講座はオンラインで開催されたことを踏

まえ、今回は3名のマスタートレーナーはサンフランシスコ、東京、仙台からオンラインで繋ぎ養成講座を行うことにした。一方、受講者同士は子育て支援者ネットワーク構築のため対面で知り合うことが望ましいと考えた。よって、受講者は私設公民館「たまいば」に集まり、開催することにした。受講者は四国中央市在住の方を対象とした。当初、受講者は13名いたが、開催直前に感染症の流行等による体調不良や怪我により11名となった。また、開催中にも体調不良等により欠席するケースもあった。

(1) 第1回 ACTすこやか子育て講座ファシリテーター養成講座

日時：令和5年11月12日（日）9：00～15：00

参加者：11名、会場：私設公民館たまいば

内容：準備ミーティング、「子どもの行動を理解する」、「怒りの感情を持った子どもを理解し援助する」について学び、体験ワークを行った。

(2) 第2回 ACTすこやか子育て講座ファシリテーター養成講座

日時：令和5年11月19日（日）9：00～15：00

参加者：9名、会場：私設公民館たまいば

内容：「親の怒りの理解とそのコントロール」、「子どもと暴力」について学び、体験ワークを行った。

(3) 第3回 ACTすこやか子育て講座ファシリテーター養成講座

日時：令和5年12月3日（日）9：00～15：00

参加者：10名、会場：私設公民館たまいば

内容：「しつけと養育スタイル」、「ポジティブな行動を導くしつけ」、「ACTすこやか子育て講座を活用するために」について学び、体験ワークを行った。今後のACTすこやか子育て講座ファシリテーターとしての活動について説明があった。

以上、18時間の講習を3日間に分けて行った。この養成講座を修了するためには必ず全日の受講が必要であるため、全日程を受講した8名がACTすこやか子育て講座のファシリテーターと認定された。今回は子育て支援者のネットワーク構築も目的としており、全日程受講できなかった場合でも共に活動

することを考えている。そのことを踏まえ、受講者には今後の子育て支援活動についてアンケートを行った。

9. 受講者アンケート

目的：今後の子育て支援者のネットワーク構築の方向性を検討する。

調査対象者の属性：調査対象者は受講者11名、性別は男性2名、女性9名である。

内容：①養成講座開催を知ったきっかけ、②受講理由、③今回の養成講座有効性、④③の回答理由、⑤「ACTすこやか子育て講座」への関与、⑥子育て支援の方向性について。以上の点についてgoogleフォームでの回答を求めた。

倫理的配慮：事前に研究成果報告の可能性、個人情報保護、研究不参加の権利を説明し、同意が得られた方に回答を求めた。

結果 受講者11名中10名の回答があった。

① 養成講座を知ったきっかけはについて、「フライヤー（チラシ）」、「知人・知り合いからの紹介」、「職場からのすすめ」、「たまいばのInstagram」、「ケーブルテレビのCM」、「その他」から選択する方法で尋ねた。その結果、「知人や知り合いからの紹介」と「職場からのすすめ」が各4名と最も多く、次いで「フライヤー（チラシ）」が2名いた。

② 受講理由については、「仕事に役立つから」、「子育て支援活動に役立つから」、「知識を深めたいから」、「職場からすすめられたから」、「自身の子育て（孫育て）に役立てたいから」、「その他」から複数選択可で回答を求めた。その結果、「知識を深めたいから」という理由が最も多く9名が選択した（図1）。次いで、8名が「仕事に役立つから」「子育て支援活動に役立つから」を、5名が「自身

の子育て（孫育て）に役立てたいから」を、4名が「職場からすすめられたから」を選択した。プライベートや仕事で受講するという理由もあったが、主に知識を深めたいという理由で受講している。

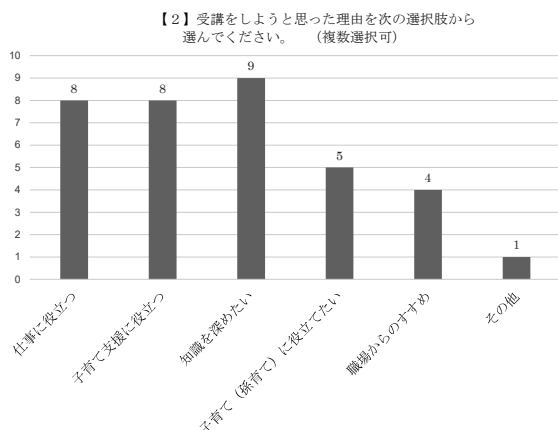


図1 受講理由

- ③ 養成講座の活用に関して、「今回の養成講座は自身の子育て支援活動に活かせるか？」と尋ねた。その結果、「はい」の回答が9名であり、今回の受講を活用できると考えていた。一方、「いいえ」は0名、「その他」が1名いた。
- ④ ③の質問に対しその回答理由を自由記述で尋ねた。回答の一部を表1に示す。③の質問に「はい」と回答した理由として、「ファシリテーター目線での保護者への関わり方、アドバイスの引き出しが増えたように思います。」や「子育てに悩む親御さんにアドバイスができると思うから」など、今回の講座で学んだ内容が子育て支援に活かせることを挙げていた。また、「今回の講座受講を通して、一人ではなく、一緒にできる仲間がいて、実際に実践できると考える」や「新しい支援者の輪ができそうだから」といった理由もあった。

表1 回答した理由（抜粋）

【4】【3】の理由を書いてください。	
1	改めて大人が与える子どもへの影響力を再確認出来たのと、ファシリテーター目線での保護者への関わり方、アドバイスの引き出しが増えたように思います。
2	今までの経験、学びを活かし、子育てで悩める保護者の支援がしたい、もっと関わりたい、講座を開きたいとの思いをもっていたが、集客方法、場所、等、何から始めていいか、その先に進めなかったが、今回の講座受講を通して、一人ではなく、一緒にできる仲間がいて、実際に実践できると考える
3	子どもの成長過程やお母さんの気持ちをより深く理解していることで、接する子や親への言動行動がよりの確にでき、より安心して過ごしてもらえと思うから。
4	子育てに悩む親御さんにアドバイスができると思うから
5	新しい支援者の輪ができそうだから

- ⑤ ACTすこやか子育て講座への関与として、「ACTすこやか子育て講座を開催することになったら、どういう形でかわろうと考えますか」と尋ねた。回答として、「ファシリテーター」、「スタッフ（ファシリテーターのサポート）」、「何らかの形で講座開催に関わりたい」、「関わることはできない」から複数選択可で回答を求めた（図2）。その結果、「ファシリテーター」として参加したいと考える

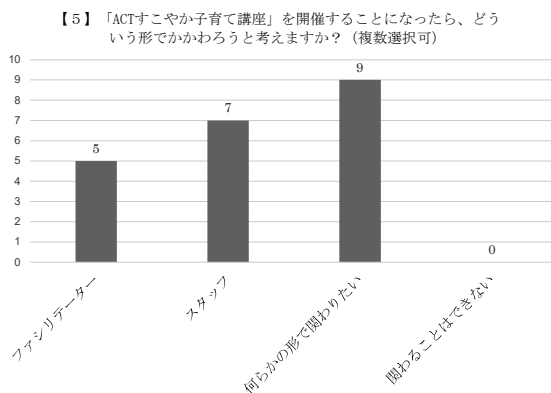


図2 ACTすこやか子育て講座への関与

方は5名、「スタッフ」は7名であった。
また、9名が何らかの形で講座開催に関
わりたいと回答した。

⑥ 子育て支援の方向性

子育て支援の方向性として、「あなたが
今後進めていきたい子育て支援活動とは
どういったものなのか、答えられる範囲
で入力してください」と自由記述で回答
を求めた。回答の一部を表2に示す。回
答として、具体的な支援活動を挙げる方
もいれば、「地域全体で子育てを支援で
きる仕組みづくり」や「細分化された取
り組みを統合再構成できないか」といっ
たものがあつた。今回の受講者は、子育
て支援に携わる小児科医師、保健師、ス
クールカウンセラー、スクールソーシャル
ワーカー、子育て支援に携わる団体の
代表、保育士など様々な肩書の方が集
まった。子育て家庭を取り巻く環境は
様々で、直面する課題も複雑化してい
る。そういった課題に取り組むため、支
援者も幅広い年齢や関連機関、立場にい
るものが連携して取り組む必要性がある
とされている。今回の受講生がまさに
そうであった。

表2 子育て支援の方向性（抜粋）

	【6】 あなたが今後進めていきたい子育て支援活動とはどういったものなのか、答えられる範囲で自由記述で入力してください。
1	家族のエンパワーメントを高めるとともに、地域全体で子育てを支援できる仕組みづくり
2	子どもが育つ、子育て支援とは子どもを取り巻く領域だけでなく広いジャンルが関わっている。 細分化された取り組みを統合再構成できないか
3	地域のネットワークとして、何らか関わっていけると考える 不登校支援。
4	フリースクールと世代を問わない地域のコミュニティ活動
5	幅広い年代で協力し合う支援活動

10. まとめ

今回の養成講座開催の目的は、①「ACTすこやか子育て講座」の定期的な開催を目指しファシリテーターの養成を行うこと、②ファシリテーターを中心とした子育て支援者のネットワークを作り、四国中央市における継続的な子育て支援につなげていくこと、の2点であった。一つ目のファシリテーターの養成については、新たに8名のファシリテーターが誕生し、達成できたと考える。来年度以降、「ACTすこやか子育て講座」を四国中央市で開催する目途がついた。一方で、実際にファシリテーターとして対応できるかは、今後のフォローも必要ではないかと考える。ACTすこやか子育て講座への関与としてファシリテーターとして参加したいと考える方は5名であった。受講者の半数であり、理由はそれぞれあると考えるが、実際にファシリテーターとして行うことができるか不安があるのではないかと予想する。ファシリテーターは教師や講師ではない。養育者から気持ちを引き出し導いていく難しい役割でもある。この役割に戸惑うこともあると考える。そこで、今後も「ACTすこやか子育て講座」の内容をファシリテーター役と受講者役に分かれ模範的に行う機会を、2か月に1回くらいのペースで設けることを検討している。そうすることで、技術向上とともに、お互いを知り理解し、子育て支援ネットワークを構築にもつながるのではないかと考える。

2つ目の目的は子育て支援者のネットワーク構築である。すでにある「しこちゅ〜ほこほこネット」において、市や活動団体の相互交流はあるが連携が十分にできているかは明確ではない。養成講座を受講し共通の理解した理論をもつことで連携につながるのではないかと考える。今回の受講者にはさまざまな職業の方がいる。例えば、保健師が健診で支援の必要な養育者がいると判断すれば、「ACTすこやか子育て講座」を紹介することもあるだろう。実際に「ACTすこやか子育て講座」を受講しても、引き続き支援が必要な場合がある。その際、引き続き保健師が対応することもあれば、保育士や市民活動団体に支援を求めることもできる。幅広い職種の方々が集まり、各々の役割を理解し連携をとること

が重要である。それぞれの役割や取り組めることを確認し合いながら、新たな子育て支援のネットワークを構築し子育て支援につなげていきたい。

引用文献

- 1) 四国中央市, 2023年11月1日, 「四国中央市の人口データ」, <https://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/uploaded/attachment/21443.pdf> (2023年11月閲覧)
- 2) 四国中央市, 2023年4月3日, 「第三次四国中央市総合計画について」概要版, <https://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/uploaded/attachment/18744.pdf> (2023年11月閲覧)
- 3) 四国中央市, 2023年4月1日, 四国中央市 まち・ひと・しごと創生 『人口ビジョン・総合戦略』～概要版～, <https://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/uploaded/attachment/5175.pdf> (2023年11月閲覧)
- 4) 小松陽子・川村玲香・柴田理瑛・平野幹雄・西澤奈穂子・足立智昭, 2018, 震災8年目を迎える宮城県におけるACT子育て講座による保護者支援活動について, 宮城学院女子大学発達科学研究, No.18, pp.44-51
- 5) しこちゅ～ほこほこネット, <https://kosodatefest.jimdofree.com/しこちゅ-ほこほこネット結成/> (2023年11月閲覧)
- 6) 四国中央市, 2023年3月1日, 「あったかなまちづくり活動支援事業」, <https://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/soshiki/12/1621.html> (2023年11月閲覧)

